

平成 29 年度新潟大学 COC+ 社会人学び直し WG 高度実践看護師等育成事業

地域看護 CNS との事例検討会

困難事例にどう対応するか

—事例検討から事例への支援・対応力を高める—
を開催しました

社会人学び直し WG 「高度実践看護師等育成事業」では、社会人の学び直しの機会を提供し、新潟県における高度実践看護師等の地域包括ケアを担う保健医療人材の育成と定着化を図るとともに、雇用の創出や拡大を目的に、高度実践看護師等の啓発普及、人材育成プログラムの検討・開発等を行っています。

今回、自治体保健師が保健活動の中で直面している対応困難事例等を素材にして、事例検討会を行うことで、新潟県内の保健師への地域看護 CNS の役割理解と関心を高めるとともに、保健師の実践の課題解決及び支援能力・技術の向上を図ることを目的に事例検討会を開催しました。

I 実施の概要

1. 日時 平成 29 年 9 月 2 日（土） 10 時 00 分～12 時 30 分

2. 場所 新潟大学医学部保健学科 C203 演習室

3. 内容

- ・経験 6 年目以上（中堅期以降）の保健師が、地域保健活動の実践において困難を生じている事例を素材にして、事例検討会を実施する。
- ・事例提供者の事例を素材とし、参加者同士の対話や地域看護 CNS の助言を受けながら、事例のニーズ・支援目標からや支援内容を検討し、保健師の支援技術と役割認識を深める。

4. 講師

事例発表者：南魚沼市保健課 保健師 川瀬百恵 氏

助言者：新潟県総務管理部人事課健康管理室 主任（地域看護 CNS） 室岡真樹 氏

ファシリテーター：新潟大学大学院保健学研究科 教授 小林恵子

5. 実施体制

主催：新潟大学大学院保健学研究科（担当者 小林恵子 齋藤智子 成田太一 堀田かおり）

共催：新潟県 公益社団法人新潟県看護協会 全国保健師長会新潟県支部 新潟県職員保健師会

後援：全国保健師長会新潟市支部

6. 参加者 17 名

II 実施の様子

事例発表者から、学校・行政・相談機関を中心とした多職種連携による学童への支援に関する事例が提供され、ファシリテーターの進行のもと、地域看護 CNS の助言を得ながら、参加者による事例検討を行い、事例に対する具体的な支援を検討するとともに多職種連携における保健師の役割、専門性について検討を深めました。

2時間以上にわたり、事例の共通理解を深めるための質疑から始まり、子どもや家族のニーズは何か、子どもや家族の行動の背景にあると考えられることから検討し、支援目標の検討、事例や事例を取り巻く支援者の強みは何か、事例や支援者の強みを活かした支援方法の検討を行いました。

時間がまだまだ足りないと思うほど、熱心に事例の検討を深める中で、多職種連携で関わる中で保健師の専門性、強みは何か、保健師としての役割は何か、を深く考えられた事例検討会となりました。



III 参加者アンケートの結果（一部抜粋）

1) 参加者の所属

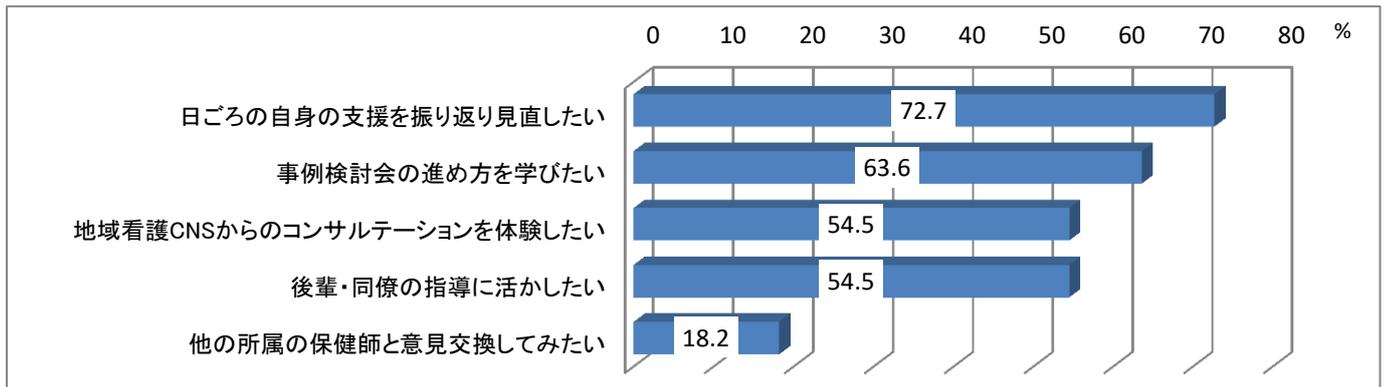
所属		人数（名）
県		2
市町村		9
オ ブ ザ ー パ ー チ ャ ー	病院（看護師）	1
	学部・大学院学生	1
新潟大学教員		4
計		17

参加した保健師の経験年数

5～10年	3名
11年～20年	6名
20年以上	1名

*アンケートへの回答は、オブザーバー参加者と教員を除く11名からいただきました。

2) 参加動機（複数回答）



3) 参加しての感想

とてもよかった 8名 (72.7%)
 よかった 3名 (27.3%)

4) 今後も事例検討会に参加してみたいと思うか

とても思う 5名 (45.5%)
 思う 6名 (54.5%)

5) 参加しての学び・参加してよかったこと（自由記載）

○自身の実践の振り返りができた

- ・保健師としての思い・意見を共有でき、日常業務の中でもこのような機会を持つ大切さを再認識した。
- ・保健師としての役割も改めて実感（自覚）するきっかけとなった。

○支援技術や方法について学べた

- ・支援目標を明確にする重要性を学んだ。
- ・問題にとらわれず、背景を考慮することで、全員で目標を見つけることが出来る良い会だった。
- ・ケースのニーズ（背景）、支援目標、強みに注目して支援を考える方法を保健師間で実践してみるという体験ができて良かった。
- ・じっくりと、ニーズ→目標→具体策と考えながら検討できた。
- ・ニーズをきちんと押さえないと、その後の支援目標・具体的支援へと繋がらないと感じた。
- ・強みを考える大切さを学んだ。
- ・困難事例の整理の仕方・とらえ方について勉強になった。
- ・初めてこうした形の事例検討会に参加し、強みを大切にしたり、整理することが重要だと気付けた。
- ・職場での事例検討とは違い、対象のニーズや強みという視点のもと、検討を進めていくことで、支援の理解がスムーズにできて良かった。
- ・自分では思いつかないアイデアを聞いた。
- ・日々の業務で参考になるような手法を学ぶことができて良かった。

○事例検討の進め方を学べた

- ・事例検討の方法を学んだ。
- ・事例検討の枠組みを理解できた。

○CNSのコンサルテーション技術を体験できた

- ・CNSのコンサルテーション技術を見ることができた。

6) その他

参加者の皆様から、『2 時間半、あっという間でした。』、『改めて一つの事例を検討できて良かったです。』、『本日のような事例検討で、さらに具体的に話が聞けると嬉しいです』というご感想もいただきました。

また、今後、『家族の複合的な問題のあるケースに対しての支援について検討したい。』というお声もいただきました。

事例検討会を終えて

複数の問題に、複数の関係者が複雑に関わる…「複数」「複雑」だらけの事例に保健師は日々関わるという中、事例検討会は、日々の悩み・困難感を解消あるいは軽減するためには必要な機会だと感じています。

保健師として、つい「自分が」何をできるかと考え悩みがちですが、チームで動いていることを意識し、「自分が」でなくチームとして動けるように調整していく役割が保健師にはあることを確認できた検討会でした。対象者のライフサイクルごとに関わる人は変化しますが、保健師だけはどの年代にも関わることができ、経過を追ってみることができます。その人、家族の歴史を連続で見ることができるという“強み”があります。多職種連携が必要な場面が多い中、保健師は何にでもなれ、いろいろな動きができるはずです。そういったおもしろさ、活動の醍醐味を感じながら地域のための活動ができるとよいなと思います。今回のような検討会が保健師のおもしろさを感じるようなきっかけとなってほしいですし、地域看護 CNS としてそういう支援をこれからの活動で少しずつでも展開したいと考えています。

地域看護 CNS 室岡真樹

今回、就業 6 年目～20 年以上の幅広い世代の保健師さんにご参加いただき、大変ありがとうございました。

中堅期以降の世代は職場でもプライベートでも多くの役割を持ち、追われるような日々を過ごしています。そのような中で、今回の事例検討会では、事例とじっくり向き合い、事例の背景やニーズ、強みを深く考え、支援を検討することができました。処遇検討は日常で行っておられると思います。しかし、事例検討会として、時間をかけて、問題となっている現象の中にある複雑に絡み合った状況・背景を解きほぐし、ニーズや支援目標を明確にする事例検討会を体験されていますでしょうか。今回のような検討のプロセスをたどることによって、具体的な解決策のアイデアが生まれ、状況の改善につながる支援が見いだせるという成果が期待できます。さらに、検討の中で行われる様々な経験知をもつ参加者同士の対話によって、対象を捉える視点や判断、支援方法の広がり、深まりといった支援技術の向上に加え、保健師の専門性・強みの認識といった職業的アイデンティティの発達にも役立つものと実感しました。自立した専門職としての役割と責任を担う一方で、日々それと向き合いながら悩む中堅期以降だからこそ、このような機会は大切なのではないかと思います。

今回、貴重な事例を素材として提供してくださった川瀬百恵さん、ご助言くださいました地域看護 CNS の室岡真樹さんに深く感謝申し上げます。今後もこのような活動を通し、地域看護 CNS の活動・魅力を発信していくとともに、保健師の皆様へ学びの機会を提供していきたいと考えています。

小林恵子 齋藤智子 成田太一 堀田かおり